

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0972300784		
法人名	社会福祉法人 敬和会		
事業所名	グループホームあすか(むらさき棟)		
所在地	栃木県下野市川中子1465-1		
自己評価作成日	平成24年9月28日	評価結果市町村受理日	平成25年1月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=09
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成24年11月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方々が喜びを感じ、それぞれの力を発揮できる場面作り、日々、取り組んでいます。毎月の行事(誕生会、合同レクリエーション、手作りおやつ、お好みメニューなど)や、四季折々に応じた様々な行事(新年会、初詣、花見、七夕、花火大会、運動会、収穫祭、クリスマス会、もちつき大会など)を入居者と一緒に考え、行い、共に楽しんでいます。地域との交流においては、施設内だけの生活にならないよう、地域の一員として地域の方と関わりを持ちながら生活できるよう、地域交流を積極的に働きかけています。運営推進会議を活用し、地域のお祭りや運動会などに参加したり、中学生や大学生との交流、地域の方々の温かい協力や支援により、様々なボランティア活動(三味線、読み聞かせ、押し花、シルバー、音楽療法、傾聴、歌謡劇団、などの定期的なもの、フラダンス、アニマルセラピー、琴、オカリナ、寿司、カラオケなどの不定期なもの)を活発に行い、地域社会との交流を深める努力をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、旧国分寺町郊外の田園地帯に位置し、近くには名所旧跡もあり、自然を感じられる落ち着いた環境に囲まれている。ホームは2ユニットからなり、通路で行き来できる。法人の理事長がホームの協力医として毎週回診し、また、近隣にある同法人の特別養護老人ホームの看護師と共に利用者への医療面での支援体制を整えている。職員は利用者の思いを共有しながら、人生の先輩として尊敬の念を持って、言葉遣いも敬語で接している。利用者と共に楽しいメニューを考えたり、おやつと一緒に作ったりして毎日の生活が楽しめる支援をしている。地域との交流にも努め、お祭り、運動会などへの参加、小中学校の児童生徒との関わりも積極的に行っている。地域性を活かして様々なボランティアの訪問や近所の人・利用者の知人等の訪問も多く、地域とのつながりを大切にしているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方々に信頼され、その人らしい生活、人生を送れるよう支援していく事を理念に掲げている。玄関に掲示し誰でも見ることが出来る。また、職員会議等において定期的に理念について話し合う機会を作っている。今年はBS法を用いて理念作りの演習を行なった。	今年、法人理念とは別に、利用者が主体である事を思い「自分から入居したいグループホーム」をテーマに職員から意見を出してもらい、ホーム独自の理念を作った。4項目からなる理念は全員回覧、職員会議等を通し管理者と職員で共有し、サービスの実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会しており、広報誌等を届けてもらっている。地域のお祭り、花見、花火大会、運動会などに参加し、中学生の訪問やボランティアの方が多数訪問し日常的に交流している。定期的にシルバーボラとの親睦会を行なっている。	自治会長・民生委員が細部について応援してくれており、祭りや運動会等地域の行事に参加している。また、法人主催の様々な行事にも地域の人たちと共に楽しんでいる。近所の人々が柿や草花の苗を持ってきてくれたりするほか、小中学生の受け入れや各種ボランティアの訪問も大変多く、地域との交流を積極的に図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の小、中学生の体験学習や地域のボランティアとの交流により認知症の人の理解や支援方法について活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に1回開催し、管理運営、入居者の処遇状況、主な行事の実施状況など報告し、入居者代表、家族代表、自治会長、民生委員、市職員、地域包括支援センター職員が参加し意見をもらい、サービスの向上に活かしている。会議で提案があった、傾聴ボラ、よさこいボラも実施に至った。	運営推進会議は2か月ごとに開催しているが、3月と9月には一緒に食事をとりホームへの理解を深めてもらっている。各種状況報告を行い参加者から活発な意見をもらい、サービスの向上につなげている。家族からゴーヤを頂き、家族の協力のもとゴーヤのカーテンが実現した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当職員が運営推進会議に参加しており、ホームの運営状況や課題、入居者の暮らしぶり等を把握してもらっている他、制度面の相談、説明会も適宜行なっており、連携に努めている。市が開催している介護施設の見学会にも協力し、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議に市担当者が毎回出席してくれるほか、制度面やその他細部の事など市を訪問して相談している。また、管理者が市の介護認定審査員でもあることから市担当者の来訪もあり、機会を捉えて市との協力関係の強化に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議において、学習会の時間を設け、身体拘束の具体的な行為(入居者に与える身体的、精神的苦痛)を理解し合い、拘束のないケアの実践に努めている。	身体拘束をしないケアについては、職員会議後の学習会で言葉かけや精神面について管理者から話しをしたり、外部研修を受講した職員の伝達研修等により、全職員で勉強し、知識の共有を図っている。また、職員自らもストレスを作らないよう、ゆったりとした気持ちで対応に努めている。日中玄関の施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は絶対にあってはならない事を職員全員が理解し、事業所内での虐待はない。にもかかわらず虐待が行なわれるとしたらなぜなのか、職員の精神状態(ストレス等)が一因と考え、職員全員にストレス等に関するアンケート調査を実施するなどし、虐待の防止の徹底に努めている。		

グループホームあすか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関係機関(社会福祉協議会等)からの資料を回覧したり、必要な時には関係者と連携を取りながら活用できるよう支援している。また、実際に活用している入居者もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面接時や契約時に、十分な話し合い、説明をし、理解、納得のもと同意を得ている。また、利用中の料金改定は、個別に説明し、書面にて同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホームの苦情相談窓口と市高齢福祉課の連絡先を明記し、ホーム内にも掲示している。家族が来所した際には必ず声をかけて、意見や要望等が言えるような雰囲気作りに努めている。また、面会簿に意見欄を設けたり、ホーム内に意見箱を置き意見や要望を表しやすくしている。無記名でアンケート等を実施している。	利用者からは日常の会話や接する中で要望などを把握している。日々の様子は担当責任者を中心に家族に伝え、また、来所の都度積極的に話しかけ、面会簿にも意見要望欄を設けたり、2年置き位にアンケートを実施するなど意見の反映に取り組んでいる。「あすか便り」を毎月送っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各種委員会、スタッフ会議、職員会議等において職員の意見や提案を反映させている。また、意見や提案を言いやすい環境作りを心掛け、適時職員に聞いている。	職員会議、スタッフ会議、サービス担当者会議の都度、職員からの意見提案等を聞くようにしている。そのほかに、生活・レク・園芸・給食・安全対策の各委員会を設け、職員間での活発な意見を基にサービスの向上に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、スタッフ会議等に出席し、職員と話し合う機会を持ち、職員個々、事業所内の状況を把握している。職員全員に目を配り、各自が向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は内容を検討し参加の有無をきめており、認知症介護実践者研修には毎年職員の参加を予定し参加している。外部研修の報告や発表を職員会議で行い、内容、知識の共有に努めている。内部研修においては、毎月技術指導会議を実施し、ケアの向上に取り組んでいる。また、職員の得意分野を把握し発揮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入している。各研修に参加した職員は、研修先で同業者との交流を持つ機会がある。また、研修の受け入れも行っている。その他、地域の同業者との情報交換、交流なども検討し実施している。		

グループホームあすか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅を訪問して面接を行ったり、入所前にご家族と共に来所して頂き本人から不安や要望等を聴く機会を設けている。希望があれば、お試してホームで過ごすことも出来る。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅を訪問して面接を行ったり、入所前にご本人と共に来所して頂き、要望等を聴く機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族だけでなく、担当ケアマネージャーからも情報提供をもらい、本人と家族の状態や状況、環境等を十分に把握し、今何が必要かを検討し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの背景を考慮し、経験(料理、畑仕事等)が活かせる様な生きがい作りを行なっている。人生の先輩から教えてもらうことは多く、共に学び支え合う関係を築いている。入居者を第一と考え、入居者誰もが主役になれるような場面作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に日常の様子や健康状態を報告したり、毎月あすかより、写真を送ったりし情報の共有を図っている。本人の嗜好や関心等を積極的に伺い、来所時にはお茶をお出しし話しやすい雰囲気作りを心掛け、信頼関係が築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者や家族からの情報を元に、昔行った場所や自宅周辺をドライブしたり見に行ったりし、家族の協力で馴染みの美容室、墓参りなど出かけている。友人や親戚等が気軽に訪ねて頂けるようなホームの雰囲気作りにも努めており、定期的に訪ねてくる友人もいる。	近所の人や友人、また、以前本人が住んでいたところの知人など訪問客は多く、地区の民生委員も昔からの馴染みで来てくれている。馴染みの美容室や墓参りなど家族の協力で出かけたり、自宅周辺を見に行くなどこれまでの関わりと継続支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の関係性を把握し、仲の良い人同士の交流を大切にしている。居室間の訪問、両棟間の訪問等の支援をしたり、リビングや行事等の席順にも配慮し工夫をしている。孤立しそうな入居者には職員が輪に入れるよう支援したり共に過ごしたりしている。		

グループホームあすか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	居宅介護支援事業者等関係機関への情報提供を行ったり、必要に応じて本人、家族への相談、支援に努めている。退所された家族のボランティアでの訪問がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での見守りや確認、表情やしぐさから、本人の希望や意向を汲み取り、把握に努めている。困難な入居者へは、家族からの情報や生活歴などを参考にし、本人本位に検討している。	コミュニケーションを沢山取ることでふとした言葉や仕草から本人の思いを汲み取るようにしている。また、担当制を持っており信頼関係のできている職員からの情報や、夜勤時や入浴介助時など機会を捉えて意向の把握に努め、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅介護支援事業者等関係機関から情報提供をして頂いたり、入所前の面接や入所後も随時、担当介護支援専門委員や本人、家族に確認を行ない把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方、心身状態等を職員が確認し、毎日記録したり、申し送りに努めている。また、職員間で情報交換、話し合う場を設け、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	コミュニケーションを多く取り、本人が望むことの把握に努めている。本人、家族、ケアマネジャー、担当職員が話し合い介護計画を作成している。作成した介護計画は家族にも説明を行い了解を得ている。3か月に1回サービス担当者会議(必要時には随時)、毎月モニタリングを行っている。	介護計画書は、あらゆる機会を捉え本人の意向を把握し、また、職員・家族を含めた連絡帳に書かれた意見を参考に、ケアマネジャーと担当職員でまとめて作成している。サービス担当者会議は3ヶ月毎、モニタリングは毎月行ない必要に応じた見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践を個別に記録している。また、介護計画を個別記録にファイルし介護計画に沿った記録をするなど現状が把握しやすくなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	近隣にある、同法人(介護老人福祉施設)の看護師と医療面での連携、協力体制ができています。また、同法人で開催されている納涼祭や餅つき、芋煮会等の行事に参加し、音楽療法には毎月参加するなど多機能性を活かした支援をしている。		

グループホームあすか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館で行われる自治会の秋祭り参加や民生委員の自宅訪問、地域のボランティア、他の機関等と協力し暮らしを楽しむ支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人及び家族に希望する医療機関を伺い、特に希望が無い場合ホームの協力医療機関に変更してもらっている。法人理事長が医師であり、週1回、回診に来てくれる体制になっている。また、他のかかりつけ医での受診については家族と連携しながら対応し、服薬や症状変化の情報提供などしている。	かかりつけ医は本人、家族の希望を尊重している。希望のない場合は理事長であるホーム協力医(内科)に変更している。週1回の回診もあることから全利用者が変更して連携が取りやすくなっている。他のかかりつけ医(整形・歯科)への受診も家族と連携し細かいメモ等で適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人施設(特養、デイ)の看護師に相談を行っている、また、必要時には応援を頼める体制になったいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、情報提供を行い、また、家族、病院関係者(医師や看護師、相談員等)と連絡を密に図り、入院期間の目途及び課題等を共有しサービスが円滑に再開できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族へ重度化した場合の対応等を説明し、実際に重度化した場合は、本人や家族の意向を尊重しながら、早い段階から主治医等とも相談し、本人の状態から最善の支援方法を検討し、希望に沿った対応をしている。終末期の対応については、家族の希望により看取りを行った事がある。	重度化や終末期に向けた対応の本人・家族への説明を入居時に行っている。重度化が進んだ場合は段階に応じて主治医とも相談しながら本人・家族の意向に沿った支援に努めている。実際には、3年ほど前に家族の協力、主治医、法人の看護師、職員などチーム一丸となって看取りを行なった。	職員も熱心に勉強し、医師、看護師の協力を得ながら、看取りに取り組んでいる事業所の姿がうかがわれるが、今後本人、家族、事業所で方針の共有を図っていく上でも話し合いの都度、同意書等の書面に残すなど検討されることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行っていないが、急変や事故発生時の応急手当、初期対応を具体的に記したマニュアルを職員が目にしやすい場所に掲示し、職員全員に配布している。また定期的に説明をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を実施している。また、夜間を想定した訓練や自動通報装置による消防署との訓練を実施し、誰もが分かるよう手順等のマニュアルを掲示し、迅速に対応できるようにしてある。自治会長や消防団にも何かあれば協力してもらえよう願ひし、運営推進会議においても議題にしている。災害時に備え備蓄品等を確保してある。	3ヶ月ごとに夜間想定も含み避難訓練や通報訓練を実施している。運営推進会議にもホームの災害対策について議題にあげるなどし、自治会や消防団の協力を依頼している。東日本大震災の教訓を活かし、水や食料の備蓄も行っている。	ホームの防災避難訓練への消防署立会い及び近隣住民の参加などの実現に向けて更に努力され、消防署、地域との協力体制がより充実されることを期待したい。

グループホームあすか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であることを忘れず、馴染みの関係であっても丁寧な言葉遣いで対応し、常に入居者へ敬意を持って接している。各居室に訪室する際にも必ず本人に断りを頂いている。入居者の個人情報漏洩防止にも努め、事務所兼通路には関係者以外立ち入りを禁止している。また、ボランティアや見学者に対しても守秘義務に関する説明や書面記入を行っている。	利用者に対し、人生の先輩と思い、言葉遣いは敬語を基本に丁寧に話している。職員は毎朝の朝礼で、接し方について一人ひとりがその日の目標を言葉にして発表し仕事に臨んでいる。職員全員が1人ひとりの尊重とプライバシー保護への意識が高い。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表せるよう、会話を工夫しコミュニケーションに気を配っている。何か行動を起こす際には、必ず声掛けをし、本人に確認したり、選択して頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者本位の考えに立ち、職員はその日行う行事やレクリエーション等の声掛けを行うが、参加するかは本人の希望を尊重している。特に予定の入っていない日は、何をしたいかを話題にし、希望を聞くよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望する美容室などへ家族や職員の同伴のもとお連れしている。化粧品や身の回りの品等を定期的に補充している。また、洋服など本人と一緒に買い物に行き、選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各自の好みなどを一覧表に明記し職員全員が把握している。出来る限り食事の準備や片付けを職員と一緒にやっている。食べたい物の希望を聞き、献立に取り入れたり、お好みメニュー、季節ごとの行事食、手作りおやつ等の献立と一緒に考えたりし、作って食べる楽しみを味わって頂いている。	食材と献立は業者に頼み、調理はホームで作っている。月1回は協議し献立に反映させている。おやつは利用者と職員で楽しく作っている。給食委員会には利用者も参加し、行事食やバイキングなど楽しめる食事の工夫をしている。ホームの畑の野菜も使用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理を工夫し、個々の状態に応じた食事形態で提供している。食事摂取表を作成し一日の摂取量を確認出来るようにしている。水分補給においても、職員が密に連携し水分不足が起こらないよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、うがい、義歯の手入れを、個々の能力に応じて支援している。		

グループホームあすか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄データ及び日常の観察を通して排泄パターンを把握しており、定期的にトイレ誘導や声掛けを行っている。	一人ひとりの排泄チェック表を用い、排泄パターンを把握している。自力でトイレに行ける方が多く、自分から行けない人には、さり気なく他の人に気付かれない声かけでトイレ誘導を行い、排泄の自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ラジオ体操や散歩など適度な運動を実施し、毎日牛乳を摂取して頂いている。排泄チェック表を確認し、排泄コントロールは、一人ひとりの状況に応じて対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の希望を確認し、本人の希望に沿うように努めている。無理強いすることなく様子を見て誘導し、更に体調を確認してその方のペースに合わせて入浴を楽しむ支援をしている。	広い浴室で各ユニットとも週3回、主に午後入浴している。入浴拒否傾向の人にはタイミングや入浴剤を工夫したり、歌を歌ったり、また、足湯や清拭・着替えのみなど職員がアイデアを出し会い利用者のペースに合わせて楽しめる入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室は、好きな時間に休めるようベットメイクしてあり、清潔を心掛けている。夜間の不眠時は、飲み物を提供したり、傾聴するなどし安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の説明書を個人記録にファイルし、職員全員で共有し理解している。内服には事前の投薬チェックを何重に数名で行い誤薬などないように努めている。また、確実に服薬できるよう内服完了まで見守りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの性格や趣味、出来ることを把握し、経験や知恵を発揮して頂いている。散歩、外出、外食、畑仕事、四季折々の行事、レクリエーション等、気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望時に随時、買い物や外出を行っている。月に数回、外出、外食、ドライブなどのお誘いを行っている。また、家族との外出も支援している。	天気の良い日には近辺の散歩をしたり広い庭を利用して運動会や花見をしたり、弁当を作り昼食会をしたりしている。希望の買い物など随時外出支援をするなどしている。また、家族の協力での外出も歓迎している。少なくとも月1回はドライブなど計画し、外出日は誰もが出られるよう工夫している。	

グループホームあすか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望を尊重し、所持して頂いている。個人での管理が難しい方には、必要に応じて好きな時に使用できることをその都度話し、理解して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から手紙を受け取ること、家族、友人に電話することがある。希望があった時は、随時電話をかけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事の写真や季節のものを職員と共に飾ることで共通の話題にもなり、穏やかな環境作りをしている。本人の作品や、入居者と職員が作り上げた作品も多い。	共用空間は食堂を兼ね段差や仕切りのない畳の休憩スペースに続いている。天井が高く天窓からの光も入り換気や温度も床暖房により心地よい空間になっている。季節の花が置かれ、壁には利用者の作品、写真がいっぱい飾られて、また、掲示してある広報誌には職員の顔写真も載っており安心して過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや椅子、テーブルを適度な配置にする事で、好きな場所で自由に過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使い慣れた家具や生活用品を使用したり、写真(家族の写真等)やご自身の作品を飾ったりして頂き、居心地良く過ごせるよう支援している。	部屋の入り口には目印に折り紙の花などを飾っている。また、家具など使い慣れたものを持ち込んで利用者個々の思い思いの雰囲気になっている。夫の写真や位牌、皇族の写真を飾っている人もいる。掃除は本人と職員とで一緒に行い清潔に居心地よく過ごせる支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来ること、わかることを把握し、その人の力に応じた行動の見守りを行っている。また、各場所に手すりや椅子を配置し、安全な環境作りをしている。		